



NEWS LETTER

—ウォーター・セキュリティ研究会—

発行：研究会事務局

創刊号

2008年7月7日

1. 研究の趣旨

2007年2月2日発表されたIPCC第4次評価報告書（AR4）において、地球温暖化の将来予測として、初めて「淡水資源」、「沿岸域と低平地」への影響が示された。これらの影響は、アジアの大都市圏においても、極めて深刻な課題であり、より詳細な気候変動による水資源環境影響評価分析、さらには、気候変動に対する適応策のため実践的なプログラムの構築が求められている。地球温暖化対策全体の中で、適応策は削減策を補完するものとして位置づけられてきたが、近年その重要性に対する認識が急速に高まりつつある。

本研究では、気候変動による水資源環境影響を最も深刻に受けるバングラデッシュと世界最大の都市圏であり、深刻な水資源環境問題を抱えている上海大都市圏を対象地域として選定し、水資源環境影響評価分析、適応策のインベントリーの作成、適応策の総合評価を行う。適応策の評価研究とともに、適応策を推進していくためには、持続可能な水環境マネジメントが必要である。アジア大都市圏においては、水管理方式として、「統合的水管理」が指向されつつある。これは、従来の中央政府主導の管理方式では限界があり、地方政府との協同化、さらには水の市場化・民営化が現実化するなかで民間企業や地域住民とのパートナーシップが「大都市圏の水の安全保障」を高めるためにも必要である。地域の状況に合致した適応策実現のための「統合的水管理」の方式を確立することが、新しい課題として提起されている。

2. 研究テーマ

I. 気候変動による水資源環境影響評価分析・適応策と統合的水管理

（アセスメントシステム構築、適応策の策定、キャパシティ・ビルディングなど）

II. 上海大都市圏における気候変動への適応策

（シミュレーション分析、ウォーター・セキュリティ水準の評価など）

III. バングラデッシュ・ダッカにおける気候変動への適応策

（湿地管理の分析、国際協力機関におけるパートナーシップのあり方など）

3. 研究会メンバー紹介



仲上 健一（研究代表）

立命館大学政策科学部教授、工学博士

専門：水資源・環境政策、統合的水資源管理

主な業績：『水資源・環境研究の現在』成文堂、2006年

『サステナビリティと水資源環境』成文堂、2008年



小幡 範雄

立命館大学政策科学部教授、工学博士

専門：環境保全、地域・環境システム論

主な業績：『環境創造と都市戦略』法律文化社、1994年

『環境調和型企业経営』文真堂、1997年



周 璋生

立命館大学政策科学部教授、工学博士

専門：エネルギー・環境政策学

主な業績：「低炭素社会実現における日中協力のあり方」省エネルギー

センター、2008年



高尾 克樹

立命館大学政策科学部教授、工学博士

専門：環境経済学、持続可能な開発政策論

主な業績：『キャップ・アンド・トレードー排出権取引を中心とした

環境保護の政策科学』有斐閣、2008年



竹濱 朝美

立命館大学産業社会学部教授、社会学博士

専門：環境政策、環境社会学

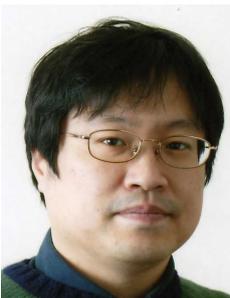
主な業績：「温室効果ガス排出削減をめぐる近未来のスケッチ」月刊

保団連、2008年

大倉 三和

立命館大学サステナビリティ学研究センター研究員、国際関係学博士

専門：国際関係論、開発社会学



福士 謙介

東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ準教授、工学博士

専門：有害物質管理、リスク管理、広域水環境管理

主な業績：「バングラデシュにおけるヒ素汚染地下水の浄化装置の

評価とヒ素除去機構の解明」土木学会論文集、2005年